



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第10回)

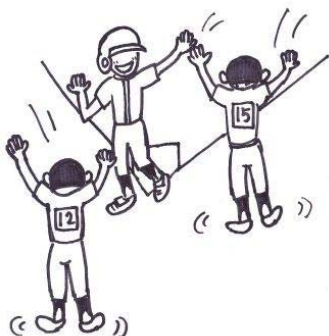


財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 殊勲打を放った選手を迎え入れるベンチの選手

2点差を追う場面での攻撃、走者を2人置いて打者が起死回生の逆転ホームランを放ちました。
ベンチの選手も大喜びで飛び出して、生還する走者たちをハイタッチで迎えています。



試合中にグラウンドに出ることが許されているのは、野球規則3・17に示される通り、「両チームのプレーヤー及び控えのプレーヤーは、実際に競技に携わっているか、競技に出る準備をしているか、あるいは一塁または三塁のベースコーチに出ている場合を除いて、そのチームのベンチに入っていないなければならない」のです。もちろん、伝令や防具の撤収などでベンチから往復することは許されています。まずは、**みだりにグラウンドに出ることは「規則違反」**だと認識しましょう。また、前号のガッツポーズなどと同様、「相手あつてのスポーツ競技」を正しく受け止め、自分たちだけの時間に浸(ひた)ることを慎まねばなりません。「節度」がなくなると、事の本質を見失ってしまいます。嬉しさのあまり…とは言え、どんな時も良識をわきまえたいものです。

ルール編 投球が打者に触れた…

投手の緩いカーブが内角へ。打者が避けなかったため、投球はエルボーガードをかすりました。打者は死球と思い、当然のように一塁へ向かおうとしましたが、球審はタイムを宣告、「ボール」とコールして打席継続を指示しました。一塁が与えられるのでは…?

野球規則6・08(b)は「打者が打とうとしなかった投球に触れた場合」、打者には一塁への安全進塁権が与えられることを定めた条項です。「ただし、(1)バウンドしない投球が、ストライクゾーンで打者に触れたとき、(2)打者が投球を避けなくてこれに触れたときは除かれる。」とあります。上記のケースは、打者が投球を避けなかったので一塁への安全進塁権が認められなかったのです。

近年、負傷防止の観点から、打撃時にエルボーガードやレッグガードの使用が認められています。防具とは、正しいプレイ中での怪我を無くすためのものです。**防具を装着しているからといって、避けなかったり、故意に当たりに行くような行為は絶対に許されるものではありません。**

なお、「デッド・ボール」は「試合停止球」を意味する用語で、正しくは、本来の「ヒット・バイ・ピッチ/hit by pitch (=hit by a pitched ball)」が使われることを望みます。

また、この機会に以下の関連事項を確認してください。

- ① 打者が投球を避けようとしたかどうかは、一に球審の判断によって決定されるものであって、投球の性質上避けることができなかったと球審が判断した場合には、避けようとした場合と同様に扱われる。【注三】
- ② 投球がいったん地面に触れた後、これを避けようとした打者に触れた場合も、打者には一塁が許される。ただし、ストライクゾーンを通過してからバウンドした投球に触れた場合を除く。【注四】

